

3月9日(火)

Singapore General Hospital ~Anesthesia~

報告:林田 昌子

朝 8:05、PGMI 前で Anesthesiology Department の Dr と合流して Operating Theater へ。今日は Dr. Tan K. H. と Dr. Stella が担当する麻酔症例を見学させて頂けるということで、更衣を済ませた後、resident である Dr. Stella の案内でその手術室へ。初めて足を踏み入れた Operating Theater は、平行に伸びる長い廊下 3 本を主軸とし、その間に手術室(前室、Scrubbing room 付き)全 24 部屋を備えたとても広い施場所でした。



私の研修している病院と同様、術前の準備は Dr. Stella および手術室 Ns により既に行われていました。麻酔科トレー内の薬剤や、患者の状態評価及び麻酔法の選択などにおいて、日本で我々が慣れ親しんだものとの相違点を発見する度に、新鮮に感じました。Dr. Tan は、我々の質問に親切に答えて下さり、とても充実した時を過ごすことができました。実際に手術が始まったのは予定の 8:25 より遅い 9:10 で、さらに手術時間の延長も加わり偶然にも類稀なる時間超過に見舞われましたが、その日 1 日に予定されていた手術件数を交渉により調整可能なことも知ることができました。時間外労働を当然のように引き受け疲弊していく日本の医師達よりも、守られた環境にあると感じました。



その他にも、自分の大学での術中麻酔の流れとは異なる点をいくつか発見しました。患者の評価をその日にもう 1 度して、そこで術者と麻酔法を決めていたり、入室後の麻酔の導入がとても速かったり、Ns の行動が的確で手馴れていたりとといった点が印象に残りました。

昼前に 1 度 ICU へ行き、Dr. Lim に案内して頂き、Residents の Presentation という形で ICU 在室の患者さん達についての説明をして頂きました。マレーシアは国境が近いこともあり、国境を越えて希望して入院してくる患者さんもいるそうです。丁度、食器洗剤中毒の報せが入り、ER へ。重症ベッドでの診療のひと場面を目撃するこ



とができました。その後 Neuro ICU 及び ICA, その後さらに監視の必要度が下がった患者たちを収容する部屋、さらに Day Surgery Department を見せていただきました。昼食は手術館の 1 階で職員食堂で頂き、デザートにお汁粉付きでこれもまた新鮮でした。



〈左：前室。ここで次の手術患者は待機。
プレメジもここで受ける。〉



〈右：場所が変われば物の名前も
デザインも変わる。〉